

「ながら」と「つつ」

1. 用法

(1) 動作の並行

働きながら学校に通う

家族に見守られつつ亡くなった

(2) 逆説用法

狭いながらも楽しい我が家

勉強しようと思いつつ、つい遊んでしまう

(3) 動作の継続

森林は破壊されつつある

2. 「ながら」は後に主動作が続き、「つつ」は前に主動作があるという説明：

- ①ゲームをしながら友人を待った
- ②友人を待ちながらゲームをしていた。
- ③ゲームをしつつ友人を待った。
- ④友人を待ちつつゲームをしていた。

上記いずれも問題なさそう。つまり、主動作はどちらでも関係ないかも知れない。但し、「ながら」の後が主動作という感じはある。

3. 「ながら」に比べて「つつ」は書き言葉的である。これは言える。

4. 「つつ」は思考を伴う動作が多いとする説。

- ①テレビを見ながら、ご飯を食べる
- ②音楽を聞きながら、掃除する
- ③予算を考えつつ、買い物をする
- ④両親のことを思いつつ、手紙を書いた

上記①、②は「つつ」に変えると大げさになり、不自然、③、④ならよいという説である。確かにそのような感じはあるが、全面的には賛成できない。「つつ」が、多少文語的な表現なのでそのように感じられるだけだと思う。